

大阪大谷大学文化財学科 《色彩に関する領域横断シンポジウム》

きらめく色彩とその技法

工房の実践プラクティスを問う
—東西調査報告からみる色彩研究の最前線—

そこからのみイメージが立ち現われる
「色彩=物質的素材」

シンポジウム・プログラム

- 10:30 - 10:40 開会挨拶／開会趣旨
- 10:40 - 11:20 津田やよい (大阪成蹊大学)
「《モナ・リザ》模写にちなむレオナルド技法の理論と実践の諸相
—最新のフランス調査の周辺から—」
- 11:20 - 12:00 島津美子 (東京文化財研究所)
「中央アジア地域にみられる壁画の技法材料について
—自然科学的調査の理論および実践の諸相について—」
- 12:00 - 13:00 昼休み
- 13:00 - 13:40 伊藤亜紀 (国際基督教大学)
「美にして臭—14-15世紀フィレンツェの染色業—」
- 13:40 - 14:20 小林典子 (大阪大谷大学)
「いとも精緻なる“表層の技法” —15世紀パリ写本彩飾挿絵の彩色法調査から—」
- 14:30 - 15:10 五十嵐英之 (倉敷芸術科学大学)
「〈中西夏之×五十嵐英之 遠くの画布 近くの絵〉展から
〈五十嵐英之 速度と遠近法 時間と焦点〉展へ」
- 15:30 - 17:00 質疑応答 (全体討論)
司会 平岡洋子 (東海大学)
(G. ディディ=ユベルマン『フラ・アンジェリコ 神秘神学と絵画表現』2001年翻訳)
- 17:00 - 18:00 懇談会 (茶話会)

2011年12月3日 (土) 大阪大谷大学博物館201教室
10:30 - 17:30 (受付: 10:00~)

※参加費無料、申し込み方法は裏面に記載

きらめく色彩とその技法

工房の実践プラクティスを問う

—東西調査報告からみる色彩研究の最前線—

2011年12月3日（土）大阪大谷大学博物館201教室
10:30 - 17:00（受付：10:00～）

- I. 第1領域：「絵画材料・技法」領域
- II. 第2領域：「歴史学・文芸」領域
- III. 第3領域：「美術史」領域
- IV. 第4領域：「現代アート制作現場より—その光学・視覚論的アプローチ」

色彩研究はやっかいな領域であると考えられてきました。それは本質的に、領域横断的で学際的な場であってさまざまな領域が交差し、とりわけ言語で構成される分野においては言語記述の方法をめぐって深刻な問いかけが繰り返されてきました。

近年、西欧中世史家 M・パストローが色彩についての画期的研究、なかでも『青の歴史』を世に問うてのち、わが国においても色彩研究の諸潮流はにわかにごめきだしています。新しい研究動向として、物理・化学的調査と技法書の原典研究が注目されます。とくに絵画領域においては、^{レシビ}物理・化学的調査と^{マイクログラフ}技法書の原典研究が注目されます。とくに絵画領域においては、^{マイクログラフ}高画質画像による「細部」の^{ディテール}情報（生々しい筆致や色斑、^{ニューアンス}顔料の選択や色調の^{サイン}調合時に仄見える画家の個性という署名…etc）が未曾有の^{ディテール}ミクロの視覚体験を呼び覚ましています。だが一体その「細部」=色彩の物理的痕跡にすぎぬものなかからどのようなプロセスを介してイメージが立ち現われてくるのでしょうか？

本シンポジウムでは、4つの視点（1. 絵画技法=材料・技法研究領域 2. 歴史学=文芸領域 3. 美術史学領域 4. 現代アート制作現場）を設営し、5つの調査報告（絵画・染色および現代アートの制作現場）の事例によって、わが国における色彩研究の最前線の姿をまずは一同に呈示できる機会であることを望みました。5つの出会いと議論を通じて、色彩という物質的素材とその技法操作のさまざまななかかわりを通して見えてくる現代的視座・地平を探索する第一歩といたします。“意味とイメージ発生の現場”に、“実践としての色彩の操作”の意味と射程を問ひかけます。

【コーディネーター：小林典子】

申し込み方法

メールか往復はがきに「お名前（フリガナ）・ご連絡先（ご住所・お電話番号[FAXも]）」をご記入のうえ、11月15日（火）（必着）までにお申込みください。先着150名。参加費無料。

会場のご案内

大阪大谷大学
ホームページ：<http://www.osaka-ohitani.ac.jp>
本学最寄駅：近鉄長野線滝谷不動駅徒歩7分

申込み・問合せ先

大阪大谷大学文化財学科・シンポジウム
「きらめく色彩とその技法」係まで
〒584-8540大阪府富田林市錦織北3-11-1
E-mail: tanidat@osaka-ohitani.ac.jp
TEL/FAX: 0721-24-1183

交通アクセス

<http://www.osaka-ohitani.ac.jp/access.html>
天王寺方面から：近鉄「大阪阿倍野橋」駅から
本学最寄駅まで約35分
新大阪方面から：JR「新大阪」地下鉄「新大阪」駅から
本学最寄駅まで約66分

I. 第1領域：「絵画材料・技法」

津田やよい
(大阪成蹊大学)



「《モナ・リザ》模写にちなむ
レオナルド技法の理論と実践の諸相
—最新のフランス調査の周辺から—」

2006年に出版された《モナ・リザ》の科学分析調査報告が記された *Mona Lisa inside the Painting*。厳格に科学的な目で見た《モナ・リザ》が作られた方法の段階分析が記されている内容をもとに画家の立場から模写を通し、絵画の技法を探究、色彩構造に迫る。

島津美子
(東京文化財研究所)



「中央アジア地域にみられる
壁面の技法材料について
—自然科学的調査の理論
および実践の諸相について—」

中央アジア地域に点在する宮殿址や仏教寺院遺跡からみつかった数多くの壮麗な壁画は、往時の栄華の一端を伝えている。現在に残る壁画を手掛かりに、当時の彩色技術や材料の流通、人々の色彩感覚を技法材料の視点から探る。

II. 第2領域：「歴史学・文芸領域」

伊藤亜紀
(国際基督教大学)



「美にして臭
—14-15世紀フィレンツェの染色業—」

14-15世紀のフィレンツェはヨーロッパでも有数の染色業のさかんな街であった。本発表では15世紀初頭に同地で書かれたとされる染色マニュアル *Trattato dell'arte della seta* (絹織物製作に関する論) から読みとれる、当時使用されていた染料、染色技術、そして色彩観について論じる。

III. 第3領域：「美術史領域」

小林典子
(大阪大谷大学)



「いとも精緻なる“表層の技法”
—15世紀パリ写本彩飾挿絵
の彩色法調査から—」

油彩画誕生期前夜のパリ写本画家たちは、洗練された彩色システムと密なる工房共同プロジェクトを展開していた。当地で著されたルベグ技法書(レシビ) *Le Libri Colorum* と科学調査の成果を駆使しつつ、精緻な色彩操作の技法と作者の創意がむすびについてゆく地平を模索する。

IV. 第4領域：「現代アート制作現場より—その光学・視覚論的アプローチ」

五十嵐英之
(倉敷芸術科学大学)



「〈中西夏之×五十嵐英之
速くの画布 近くの絵〉展から
〈五十嵐英之 速度と遠近法
時間と焦点〉展へ」

2006年に中西夏之氏との共同研究において、像の拡大と拡散の試みをおこなった。絵画における色彩問題を画家の視点から論じる。また、その研究を経て新たに取り組んでいる作品制作について展覧会で出品された作品を紹介しながら解説する。

